
全労済協会
「つながり暮らし研究会」
概要
現地視察（2018年10月実施）

1. 10月14日(日)視察報告①「URBAN PICNIC」

(アーバンピクニック 事務局長 村上豪英 氏)

神戸市役所前にある「東遊園地」は、普段の利用者が少ない公園でしたが、もっと楽しく使えばまち全体がステキになるのではないかという市民の声から、さまざまな社会実験が行われ、今では多くの人が集まる公園になっています。



この社会実験は2015年から「アーバンピクニック」というイベント名で行われ、公園の芝生化やファーマーズマーケット、公募プログラムなど、行政と市民が一緒に東遊園地の可能性を引き出す場となっています。視察当日もプログラムの参加者や家族連れなどで、とてもにぎわっていました。

プログラムの一環であるカフェを利用し、事務局長の村上氏から、活動の経緯や苦労されたことや今後の展望などのお話をうかがいました。人が常駐しているカフェを設置することでコミュニケーションのきっかけをつくったり、カフェ併設の「アウトドアライブラリー」に本を寄贈してもらうことであまり公園に来ない人にも関わりを持ってもらったり、演奏会やガイドツアーなどを開催して人に来てもらったり、さらに、コアメンバー以外はボランティアで運営しているなど、アーバンピクニックは、人と人、人と地域をつないでいるのです。

URBAN PICNICホームページ⇒<http://urbanpicnic.jp/>

2. 10月14日(日)視察報告② 「こえとことばとこころの部屋(ココルーム)」

(代表 上田假奈代 氏)

ココルームは、詩人である上田氏が表現とてあいの場をつくろうと、2003年に大阪の新世界ではじまりました。2008年からは日雇い労働者の街である釜ヶ崎に移り、カフェやゲストハウスを運営しながら、地域に根ざし、そこに集う人たちとの会話の中からさまざまな活動を生んでいます。視察当日も外国人の宿泊者や地域の子どもたちが和気あいあいと過ごしたり、自分の家のようにくつろいでいる様子が印象的でした。



視察では、まず代表の上田氏から活動の内容や思いなどについて詳しくお話をうかがい、その後、上田氏アテンドのもと、釜ヶ崎地区を歩きながら高齢化が進み変化するまちの様子と歴史について説明を受けました。

上田氏が活動の軸にしている「表現」とは、絵や音楽などのアートはもちろん、気持ちを表現して相手に伝えること・その声を聞くことでもあります。ココルームに訪れる人との気軽な世間話をきっかけとして、心の中にある声に耳を傾けていくことを大事にされているそうです。そして、その「表現」の中には多くの悩みや課題が隠れていることに気づき、応答するようにして事業を立ち上げ、いまのココルームの活動につながっているとおっしゃっていました。

ココルームホームページ⇒<https://cocoroom.org/cocoroom/jp/>

<文責:全労済協会調査研究部>